

市民参加型まちづくり1%システム 平成27年度1次募集を開始します

市では、個人市民税の1%相当額を財源に、市民自らが地域を考え実践する活動に必要な経費を助成する、「市民参加型まちづくり1%システム」を実施しています。この制度は、地域の実情に身近な市民の皆さんが実践する、地域の課題解決や活性化につながる活動を支援することにより、「市民力」による魅力あるまちづくりを推進するものです。

本年度は、1次から3次までの事業募集を行い、57事業が交付決定され、地域交流事業や環境美化活動、まちのにぎわいを創出する事業など、さまざまな分野に活用されました（それぞれの事業の詳細については市ホームページをご覧ください）。

今回、来年度実施する事業を募集しますので、皆さんのアイデアや経験を生かした事業の提案をお待ちしています。※申請金額が20万円以下の事業については、補助金の申請に不慣れな団体の負担を軽減するため、平成25年度から公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意としていますので、積極的に制度をご活用ください。

▽募集期間（1次募集） 1月7日～2月6日

▽事業実施期間 4月1日～平成28年3月31日

※この制度に関する予算については、平成27年第1回市議会定例会で審議され、その可決をもって制度を実施します。

▽対象事業 原則、市内で実施される公益的な事業で、住民や構成員が自ら行動して実施する継続性のある事業

▽対象団体 構成員が5人以上で、市内に活動拠点があり、組織の運営に関する定款・会則などが定められている団体（新たに組織する団体も対象）

▽補助金額 対象経費の90%以内の額（原則50万円を限度）

▽申請方法 所定の書類を、市民協働政策課へ直接持参してください。

▽平成27年度の事業募集予定 提案事業の募集は、3次募集まで予定しています。

◎2次募集期間 4月13日～5月12日（事業実施期間…7月1日～平成28年3月31日）

◎3次募集期間 7月13日～8月12日（事業実施期間…10月1日～平成28年3月31日）

■問い合わせ・提出先 市民協働政策課（市役所2階、窓口254、☎40・7108、Eメールshiminkyoudou@city.hirosaki.lg.jp）

※制度の詳細や申請書類は、同課で配布するほか、市ホームページ（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gyosei/seido/ichipercen/index.html>）に掲載しています。

まちづくり1%システム

で 検索



1%システムの事前相談を受け付けします

来年度の事業募集に当たり、「1%システム事前相談期間」を設け、個別に相談に応じます。「1%システムとはどんな制度?」「事業を申請したいけど、書類を作るのが大変」など、簡単な制度の概要から具体的な書類の書き方まで、気軽にご相談ください。

▽相談期間 1月5日～23日（相談日時は希望に応じて調整します）

※この期間に限らず、1%システムに関する質問や相談については、いつでも受け付けていますので、気軽にお問い合わせください。

応募を考えている人は
はどんどん来てね！
相談待ってるよ～♪



ひろさき
夢追い人
File.18

よしもと たかふみ
吉本 岳史さん

1978年5月生、高知県出身
サッカー選手兼監督

ポジションはDF、MF。ニックネームはヨッピー。愛媛県立南宇和高等学校から福岡大学を経て、2001年名古屋グランパスエイトに加入。2002年6月に横浜F.C.ヘレンタル移籍し、2003年には水戸ホーリーホックに完全移籍をする。水戸では主力選手として活躍。「ディフェンスの統治者」、「水戸の大黒柱」と称されていた。また、直接フリーキックを得意としており、水戸に所属していたときにはチーム得点王にもなった。2005年から2007年までチームキャプテンを務め、2008年に横浜F.C.へ完全移籍するも、2010年引退。2012年、弘前市に本拠地を置くブランデュー弘前F.C.の選手兼監督に就任。2014年、東北リーグ2部北で優勝し東北1部リーグに昇格。今年は東北1部リーグでの優勝を目指す。

【市民の皆さんへ一言】

『本気で弘前のサッカー文化を変革したい』と常に思っていて日々取り組んでいます。弘前に来て2年6カ月。5、6年居るような感覚で、時間以上に濃い日々を過ごし、温かい弘前の方々に支えられながら成長させてもらっています。



弘前城石垣修理

第6回 ～石垣修理発掘調査～



発掘作業の様子（平成26年度）

発掘調査は、石垣を解体前と同じ構造に積み直していく前段階として、石垣の構造や本丸平場に残る遺構の状況を記録に残すため実施しているものです。平成25年度より、本丸東側石垣修理工事対象範囲700㎡において、本丸平場の面的な発掘調査を行っています。

昨年度までの調査の結果、築城時の慶長16年（1611）に築かれた本丸東側石垣の北端では、裏込（石垣裏側に詰められた玉石の層）が幅2m程度であったのに対し、元禄期（1694～99）に築かれたと思われる中央部の石垣では裏込の幅が1m弱程度と、石垣の築造時期により、裏側の構造に違いが生じていることが明らかとなりました。

今年度も同じ範囲において、平成25年度の成果をもとに更に掘り下げを行った結果、慶長16年築城時のものと思われる盛土層、明治27年（1894）以降の本丸東側石垣の崩壊範囲とそれに伴う石垣修理工事の様相が、徐々に明らかになってきました。

発掘調査範囲の西端（本丸中央側）では、ほぼ全域において橙色の粘土層が確認されており、現段階では、この土が弘前城築城時の土木工事で築かれた盛土と推測されています。江戸時代の記録によると、本丸東側石垣中央部分の長さ約70mは、元禄期に石垣が積み足されるまで土の斜面になっていました。発掘調査で確認された橙色粘土層も、内濠方向へ急勾配に落ち込むの面となっていますが、元禄期の石垣積み足し工事や、明治期以降の石垣崩壊・修理工事の際に盛土層

が切土された可能性もあるため、今後はその点も考慮しながら調査を進める予定です。

また、明治～大正時代の石垣崩壊・修理に関わる成果についてですが、明治時代に描かれた「本丸天守閣石垣崩壊の図」には、天守台から北に十間半（約19m）の範囲で石垣が崩壊したと記録されています。発掘調査では、この記録とほぼ同じ範囲において、径20cmほどの玉石を多く含む白色粘土の広がり確認されました。この粘土層には、当時崩れた石垣石材が混入しています。更に、当時は石垣崩壊範囲よりも広く、天守台から北に40m付近まで石垣を積み直していることも判明しました。

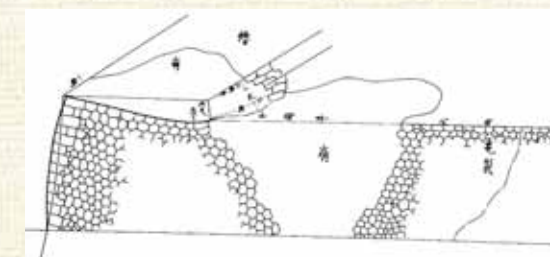


△明治～大正時代に石垣崩落部分を修復した盛土

平成27年度のさくらまつり後には、現在の発掘調査範囲の北側部分の精査を進めます。また、曳屋（ひきや）工事により天守が移動している9月中ごろには、天守台の発掘調査に着手する予定です。弘前城に残る江戸時代の痕跡を確認できるか、興味深いところです。※次回連載は、平成27年度に掲載を予定しています。



△築城時のものと推定される橙色粘土の盛土層



＜「本丸天守閣石垣崩壊の図」（明治時代、所蔵機関不明）明治時代に崩壊した石垣の破損状況を示した図。石垣の崩壊部分の寸法・位置や、亀裂部分の位置が分かる。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記URLをご覧ください。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/shisetsu/park/ishigaki.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）